

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 青葉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

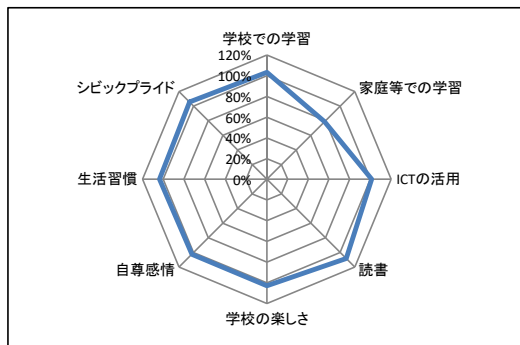
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識・技能の2区分において、平均正答率を大きく上回っており、読み書きの基本が身に付いている。しかし、全国平均と比べて無回答率が高い設問が6／14あり、思考・判断・表現に課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。観点（知識・技能）領域（情報の扱いに関する事項）選択式	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付ける。観点（思考・判断・表現）領域（読むこと）記述式	

算数	全体的な傾向や特徴など	数と計算の領域については全国平均を上回っているが、その他の領域については、下回っている。特に図形の正答率が低い。全国平均と比べて無回答率が高い設問が15／16ある。特に、数と計算の領域の、分数の分野における無回答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる。観点（思考・判断・表現）領域（図形）記述式	
	努力が必要な問題	角の大きさについて理解している。観点（知識・技能）領域（図形）選択式	

理科	全体的な傾向や特徴など	すべての領域において全国平均を下回っている。特に、生命を柱とする領域の正答率が低い。選択式で答える設問の正答率が高いが、記述式で答える設問の無回答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている。観点（知識・技能）領域（エネルギーを柱とする領域）選択式	
	努力が必要な問題	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる。観点（知識・技能）領域（粒子、地球を柱とする領域）選択式	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の問いに対して、約85%の児童が肯定的に回答している。	
○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対して、約98%の児童が肯定的に回答している。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の割合も高い。日々の道徳教育の成果が出ている。	
●家庭学習時間に充てる時間の比率が低いことから、学校からの課題だけでなく、今後も自主学習や読書活動などの推進を行っていく。	
●「PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」に対して肯定的な回答をした比率は全国平均と比べて低い。デジタルドリルに取り組みさせて知識・技能を高めたり、ICT機器を活用して、資料・情報を収集・整理させたりすることで、ICTを活用した思考・判断・表現力を高める授業づくりに努める。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○自分の考えを書く時間の確保や、「まとめ」「ふりかえり」を自分の言葉で表現できるような授業づくりやノート指導を行う。また、ICT機器を活用して資料や課題を提示したり、児童に情報の収集や、学んだことを整理させたりして、思考・判断・表現力を高める授業づくりに努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○学校からの課題だけでなく自主学習の推進を促す取組を継続する。「量・時間」ではなく、「工夫・継続・挑戦」を認め、学校の掲示板上に掲示したり、学級活動などで取り上げて話し合わせたりすることで、学校内で共有・称賛する機会を設定する。